

古事記に見る建築用語を考える

一級建築士 針山康雄

第一部 古事記に出自する建築用語

古事記に出てくる建築用語（* p 数字は新編日本古典文学全集古事記のページを示す）

古事記上つ巻

p 31 伊耶岐命と伊耶那美命 ①於能碁呂島②神の結婚

是（み）のただよへる国を修理（つくろ）ひ固め成せ

勝興寺修理現場所長が「修理固成」を修繕？

天の浮橋

天の御柱を見立て八尋殿を見立てき

天の御柱は依り代？⇒仏教内陣に如来の依り代としての来迎柱

八尋殿は大きさを表している ⇒尋→人間が両手を広げた長さ

p 45 ⑤黄泉の国

殿より戸を滕（と）じて出で向ひし・・・黄泉のひら坂

滕戸（さしと）⇒蔀戸形式？錠のかかる戸があった？

古墳の石室から長くて暗い羨道→藤ノ木古墳

p 71 天照大御神と須佐之男命 ⑤八俣の大蛇退治

汝等、八塩折の酒を醸（か）み、亦、垣を作り廻らし、その垣に八の門（かど）を作り門ごとに八のさずきを結び、其のさずきごとに酒船を置きて、船ごとに・・・

門⇒囲いや垣の出入りできる構造であり、仏教伝来以前は簡単な構造であった。

仏教伝来以降は屋根ができ種々な形式が導入された。

「東雅」によると「漢には両扉を門と云い単扉を戸といふされば門の字、両扉の形に象れるなり」倭名類聚抄に「門舎は六品いかの人々や一般の庶民が通ることができない」とあり、建築施設である。

構造的に四脚門、八脚門、平門、楼門、棟門、櫓門、冠木門、長屋門、薬医門、釘貫門、押立門、木戸門、平重門

古墳時代の壁画に鳥居の様な形が見えるので棧敷を付けれる門→冠木門？

さずき⇒仮の床

p 73 ⑥須賀の宮

八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに八重垣作る その八重垣を

八重垣⇒伊勢神宮においては正殿の前にある瑞垣門と玉垣に開かれている竜門との間にある垣。

垣と塀の違い⇒垣間見えることができるのは垣で竹や柴、萩が主材料。亘⇒巡らす。

屏⇒追い払う、しりぞける

p 81 大国主神 ②根の堅（じゅ）州国訪問

其の蛇の室に寝ねしめき

室の意

① 家の奥にある部屋

② 岩屋を利用した空間で出入り口を塞ぐモノがある

③ 天井と壁の取り合いが塗りこめて丸くしてある室→妙喜庵茶室、韓国の民家

この場合は岩屋を利用した部屋？

先史時代（縄文・弥生・古墳）の建物の分類
掘立て柱

表 1.1 先史時代の建物分類別存在状況（宮本長二郎による）

住居形式		時代		縄文時代						弥生時代			古墳時代		古代		中世	近世	近現代		
		旧石器時代	後期	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	前期	中期	後期	前期	中期	後期	奈良				平安	
平地住居	伏屋型	平地式	[存在]																		
		周堤式	[存在]																		
		周溝式	[存在]																		
	壁立式	[存在]																			
竪穴住居	伏屋型	A式	[存在]																		
		B式	[存在]																		
		C式	[存在]																		
	2段式	[存在]																			
	2重式	[存在]																			
	壁立式	[存在]																			
掘立建物	平屋建	多角形平面図	[存在]																		
		梁間1間型	独立棟持	[存在]																	
			近接棟持	[存在]																	
			壁心棟持	[存在]																	
			棟持なし	[存在]																	
		主柱併用型	[存在]																		
		多柱梁間型	[存在]																		
	梁間2間型	[存在]																			
	総柱式	[存在]																			
	高床建築	梁間1間型	大引貫式	[存在]																	
際束式			[存在]																		
分岐式			[存在]																		
造出柱式			[存在]																		
屋根倉式		[存在]																			
総柱型		校倉式	[存在]																		
		板校倉式	[存在]																		
		通柱式	[存在]																		
		総通柱式	[存在]																		
	角柱式	[存在]																			
礎石・土台建物		[存在]																			

(表中の黒ワク部分は遺構の存在を示し、白色部分はその可能性を示す。)



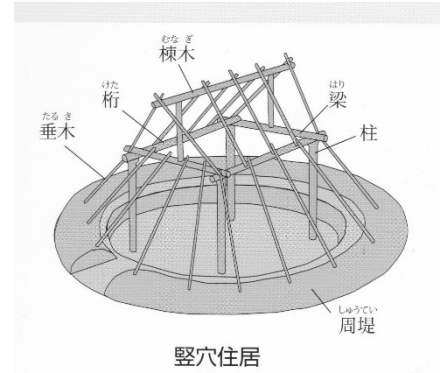
図 1.1 先史時代の建物分類（宮本長二郎による）

p 83

家に率（い）て入りて八田間の大室に換し入れて・・・その神の髪を握り、其の室に椽（たるき）ごとに結び着けて五百引の石を其の室の戸に取塞ぎ・・・

八田間⇒8坪程度の竪穴住居？

別棟一室の建物で屋根下地材を支える垂木がある建物
室の戸→葎戸



竪穴住居

p 85、p 111 ④国譲り

大国主命と為り、亦、宇都志国玉神と為りて、其の我女須世理毘売を適妻（むかひめ）と為て宇迦能山の山本にして「底津石根に宮柱ふとしり高天原に氷椽（ひぎ）たかりて居し」

出雲大社⇒大社造



◆ 考え方

- ・「金輪御造宮差図」の表現と発掘遺構の共通性を重視。同図を旧本殿遺構の設計平面図とみなす。
- ・類例のない本殿遺構の特殊性を重視。神社などに伝わる高さ16丈説を積極的に認める。

◆ 構造上の主な特色

- ・基壇で柱の根本を補強し、3本1組のまま柱を床下まで立ち上げる。そこに太い材を平面形が「井」字状（土居桁、台輪）になるよう組み合わせ、高床面をつくる。
- ・床面上には、別の柱を立てて、平面形がやや横に長い小屋組を造る。その小屋組の柱と床面以下の部材はソケット状に接合する。
- ・「金輪御造宮差図」に基づき長大な階段を設けるが、いわゆる階段ではなくスロープ状とする。これには、造営時の足場に代わる機能も想定する。

p 104 忍穂耳命と邇邇芸命 ②天若日子の派遣 下照比売

のち、其処に喪屋を作りて・・・

死体を安置して8日8晩歌舞音曲をして誄（しのびごと）の出きる仮小屋

p 129 日子穂穂手見命と鵜葺草葺不合命①海神の国訪問

即ち内に率（い）て入りて、みちの皮の畳を八重に敷き、亦、縄畳（きぬたたみ）を八重に其の上に敷き其の上に坐（いま）せて百取（ももとり）の机代の物を具へ御饗（みあえ）の為して・・・

畳のルーツ みちの皮⇒アシカの皮、

縄（し）⇒つむぎ、太く洗い糸で織った織物

p 135 ②鵜葺草葺不合命の誕生

即ち、其の海辺の波限にして、鵜の羽を以て葺草と為して産殿（うぶや）を造りき、その産殿を未だ葺き合えぬに御腹の急（にわ）かなるに忍（た）へず、故、産殿に入り坐しき

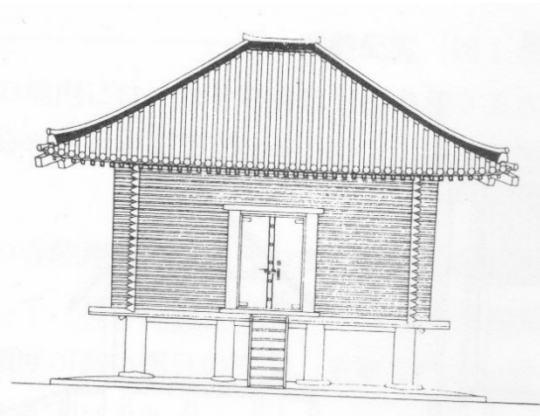
葺草⇒屋根材→古代は植物性資材を使った。

中つ巻

歴史上の年号は？

p 147 神武天皇 ③熊野の高倉下

此の刀を降（くだ）さむ状（かたち）は高倉下が倉の頂を穿ちて、其より墮（おと）し入れむ
倉⇒高床式倉庫→石上神宮→武器庫→七支刀
頂⇒棟



p 149 ④八咫鳥の先導→高句麗は三足鳥？

僕（やつかれ）は国つ神石押分之子（いわおしわく）と言ふ
石押分之子⇒国栖の祖→国を住む家とする者
→土木建設、鉱山の祖

p 153 ⑥久米歌

忍坂の大室に到りて時に尾生ひたる土雲の八十建、其の室に在りて
待ちいなる・・・忍坂の大室屋に人多（さわ）に来入り居り、人多（さわ）
に居りとも・・・

忍坂（桜井市）の大室屋

p 157 ⑦皇后の選定

其の美人の大便（くそま）らむと為し時に、丹塗矢と化（な）りてそ
の大便らむと為し溝より流れ下りて其の美人のほとを突きき・・・

厠（かはや） 古語辞典 旺文社 1992 年

① 側家→家のソバに作った個室の家

② 川屋の意味は川の上に渡して作った家→便所、溝流（みぞる）→水洗便所の祖？

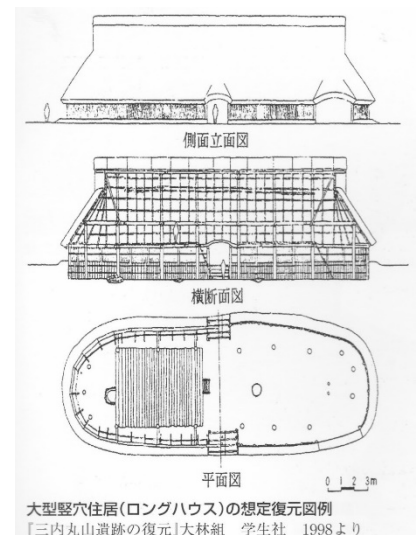
p 160 ⑦皇后の選定

葦原の穢しき小屋に菅畳、弥清（いやさや）敷きて我二人寝し
畑など農作業小屋程度か？

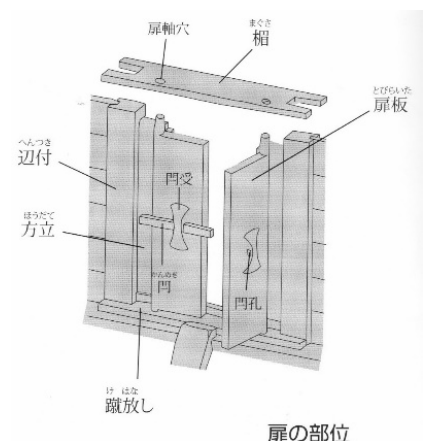
p 187 崇神天皇 ③三輪山伝説

その父母、その人を知らむと欲ひてその女に誨（おし）えて曰ひ
しし「赤き土を以て床の前に散しへその紡麻（うみお）を以て針
に貫きその衣の襷（おそ）に刺せと」いひき、故、教えの如くし
て旦時（あした）に見れば針に着けたる麻（お）は戸の鉤穴より
控（ひ）き通りて出で、唯に遺れる麻は三句のみなり、即、鉤穴
より出し状（かたち）を知りて、糸に従ひて尋ね行けば、美和山
に到りて神の社に留まりき・・・

その当時に施錠する技術があった⇒「美和ロック」と関連？



大型竪穴住居(ロングハウス)の想定復元図例
【三内丸山遺跡の復元】大林組 学生社 1998より



p 227 景行天皇 ①弟橘比売

海に入らむとする時に、菅畳八重、皮畳八重、縄畳八重を以て波の上に敷きて・・・

p 227

亦、其の山の上に縄垣（きぬがき）を張り、帷幕（あげはり）を立て許（いつわ）りて舎を以て王と為して

戦国時代の陣幕を張った休憩施設？

p 275 応神天皇 ⑨天之日矛

即ちその人を捕へ獄囚（ひとや）にいれむとしき

監獄は韓ドラにあるような半地下に檻のあるようなもの？

p 279 ⑩秋の神と春山の神

是に、春山之霞壯夫（おとこ）、その弓矢を以て嬢子（おとめ）の厠に撃（か）けき

爾（しか）くして伊豆志袁登売（いずしおとめ）その花を異（け）しと思ひて、将（も）ち来る時に、その嬢子の後（しり）に立ちてその屋に入りて、即ち婚（あ）ひき、故、一人の子を生みき

この厠は前述したように①のことか。弓矢と性行為？

下つ巻

p 287 仁徳天皇 ②聖帝の世

是に天皇 高き山に登りて四方の国を見て詔（のちたま）ひしく「国の中に烟発たず、国皆貧窮（まづ）し故、今より三年に至るまで悉く人民のの課役を除け」とのりたまひき、是を以て大殿、破れ壊れて、悉く雨漏れどもと（かっ）て修理（つくろ）ふことなし、其の漏る雨を受けて漏らぬ処に遷（うつ）り避りき

修理⇒修繕

p 307 履中天皇 ②墨江中王の反乱

其の弟、墨江中王、天皇を取らむと欲（おも）ひて火を大殿に著（つ）けき

放火

p 311 ③水齒別命と曾波訶理

是に曾波訶里、窃（ひそか）に己が王の厠に入るを伺ひて矛を以て刺して殺しき

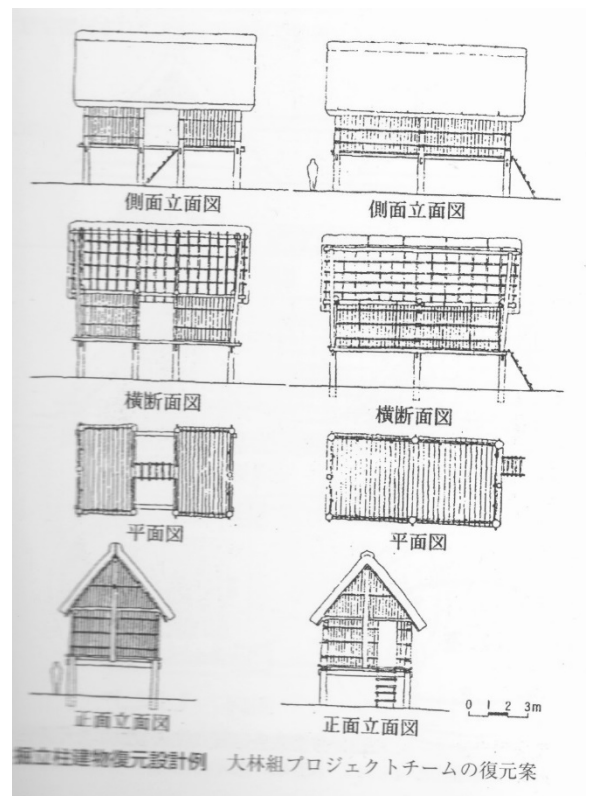
この厠は①での殺人

p 321 允恭天皇 ③軽太子と軽大郎女

爾（しか）くして軽太子、畏みて大前、小前宿祢大臣が家に逃げ入りて、兵器（つはもの）を備へ作りき、穴穂王子もまた、亦、兵器を作りき、是に穴穂御子 軍を興して大前小前宿祢が家を囲みて、爾（しか）くして、その門に至りし時に大氷雨霽りき、故、歌ひて曰く

大前小前宿祢 金門蔭（かなとかげ）、斯（か）く寄り来ね雨立ち止めむ

金門蔭⇒扉を金物で飾り固めた格式のある門



p 337 雄略天皇 ②若日下部王

初め大後の日下の坐しし時に、日下の直越えの道より河内の幸行(いでま)しき、

爾(しか)くして、山の上に登りて国の内を望めば堅魚をあげて舎屋(や)を作れる家有り

天皇その家を問はしめて云ひしく「其の堅魚を上げて作れる舎は誰ぞいひき」答えて曰ししく「志幾の大県主が家ぞ」とまをしき、爾(しか)くして天皇の詔はく「奴や、己が家を天皇御舎(みあらか)に似せて造れり」とのりたまひて即ち人を遣して、その家を焼かしめむとせし時に.....



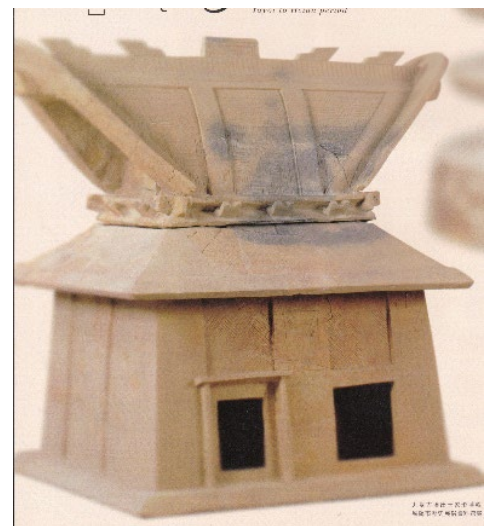
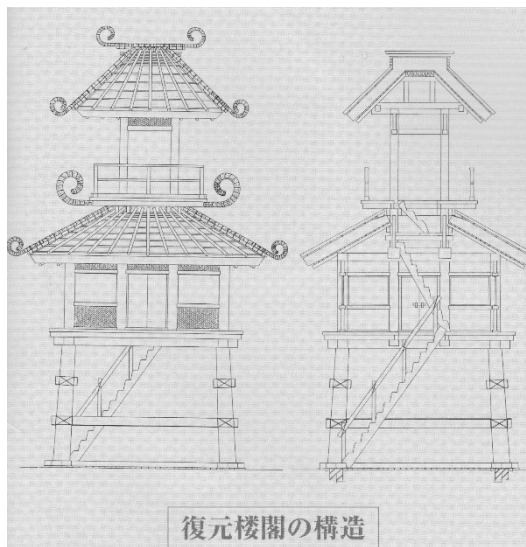
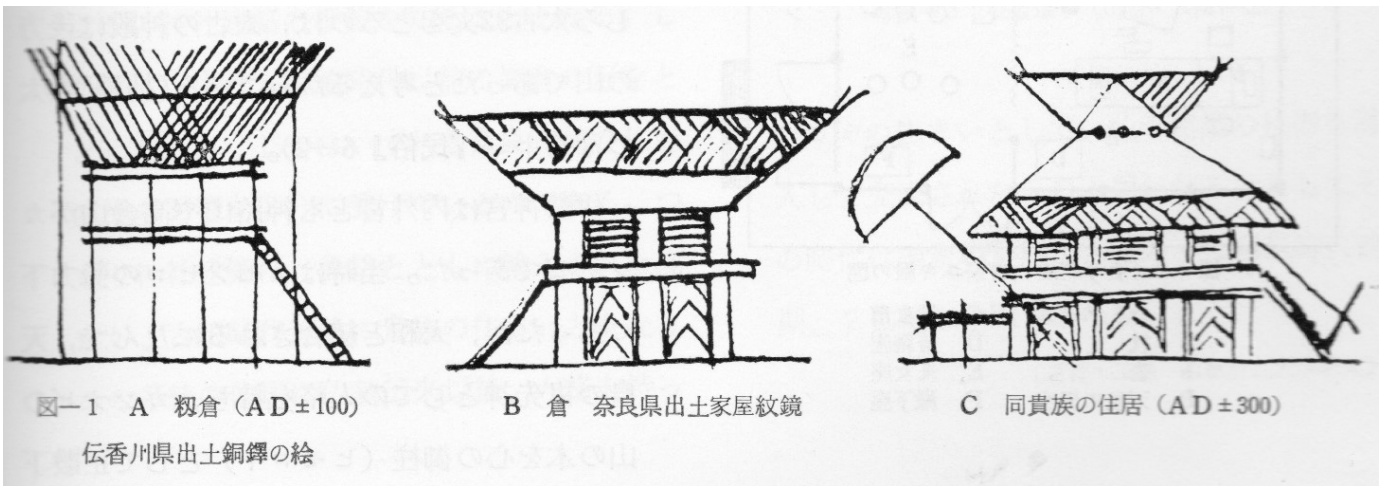
豪族の家として堅魚木のある家埴輪が出土している。

これ以降は、堅魚木を天皇の権威と考えられる。

勝男木の表記の意味は？

出土された銅鐸や土器、家埴輪から

唐古・鍵遺跡と家埴輪



p 351 ⑨三重の采女

纏向の日代の宮は朝日の日照る宮、夕日の日光る宮、竹の根の根足る宮、木の根の根延(は)ふ宮、八百土(に)よしい杵築(いづき)の宮、真木栄(さ)く檜の御門、新嘗屋に生ひたる・・・

版築工法→けんちくぶつの基壇を構築するために先ず玉石を敷き詰め、其の上に石灰を混ぜた良質の粘土を棒で突き固め、厚さ 10~15 cmほどの層にしてこの上に砂を敷く。この作業を繰り返して基盤を作る。飛鳥時代に大陸から伝えられた。

建築材として檜を使用

新嘗屋はどのような形状?⇒高床式倉庫の様なのか

p 359 清寧天皇 ②歌垣

爾(しか)くして袁祁命(おけのみこと)も亦、歌垣に立ちき 是に志毘臣が歌ひて曰く
大宮の彼(おと)つ端手(はたで)隅傾けり

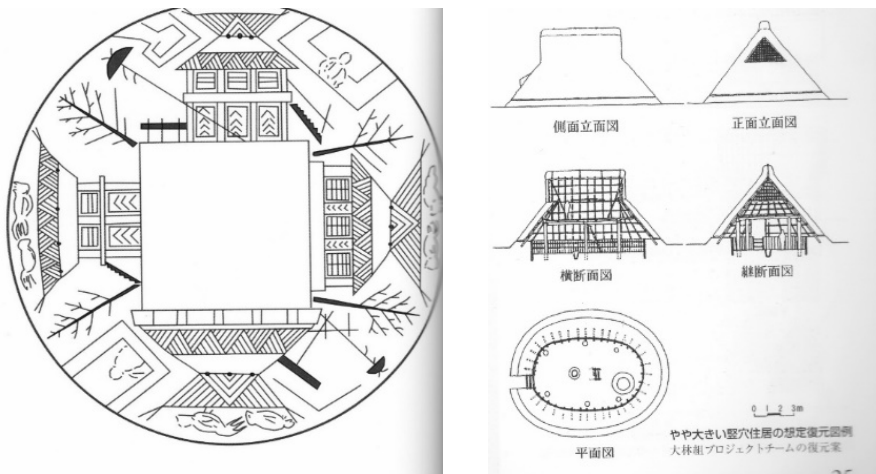
如く此の歌ひてそのうたの末を乞ひし時に 袁祁命の歌ひて曰く
大匠 劣(おじな)みこそ隅傾しむ

爾(しか)くして志毘臣 亦、歌ひて曰はく

大君の心を緩(ゆら)み臣の子の八重の柴垣、入り立たずあり・・・

大匠⇒大工の棟梁 柴垣

銅鏡(家屋文鏡 径 22.8 cm)で示された図→佐味田宝塚古墳



参考文献

永井規男「たたみ」田淵敏樹「門の起源について」「神社建築のはじまり」林野全考

『建築モノのはじめ考』昭和 52 年 新建築社

米澤貴紀『神社の解剖図巻』 2016 年 エクストレッチ

宮本長二郎「神々の住まい」『古代出雲歴史博物館展示ガイド』2010 年古代出雲歴史博物館

「建築部材はおもしろい」『弥生建築』2009 年 大阪府立弥生博物館

建築を表現する平成 20 年 奈良国立博物館

唐古・鍵考古学ミュージアム 2005 年 田原本町教育委員会

『縄文文化の扉を開く』国立歴史民俗博物館編 2001 年

『角川新字源』 小川環樹、西田太一郎、赤塚忠編 1992 年

岡野忠幸『建築古事記』東京美術 1966 年

後藤治「原始的な建物と集落」『日本建築史』共立出版 2006 年

『建築大辞典』彰国社昭和 51 年

第2部 神社建築の様式

奈良時代前期の古代社殿様式

大社造→切妻、妻入り、方二間正方形、出入口は右側

大鳥造→大社造から住吉造への過程での変化、出入口は中央

住吉造→切妻、妻入り、側面4間、正面2間、中央に間仕切り

神明造→切妻、平入り、棟持柱、千木、小狭木舞（鞭掛）

唯一神明造→伊勢神宮のみ、屋根葺きは膨み湾曲

伊勢神宮は堅魚木、千木の切り方に内宮（10本内削）と外宮（9本外削）で違う



神明造 豊受大神宮(伊勢神宮外宮)正殿模型

正面3間×側面2間、切妻造平入り、茅葺。独立する棟持柱が特徴的です。伊勢の神宮では、7世紀以来、20年に1度、社殿とその殿地、奉る神宝装束類などすべてをあらためる式年遷宮(定期的な造替)の制度を現代に伝えています。
※神宮は、皇大神宮(内宮、祭神 天照大御神)と豊受大神宮を中心に125の社からなっています。
1993(平成5)年造替 模型縮尺1/50



流造 賀茂別雷神社本殿模型

正面3間×側面2間、檜皮葺で切妻造平入りの正面側の屋根(向拜)を曲線的に前方に伸ばした形です。亀腹基壇上の井桁状の土台の上に柱が立ちます。造替の間隔は一定せず、定期造替の制があったかどうかははっきりしません。本殿と並立する同大同形の権殿は造替時に仮殿の機能を果たしたとされます。一般的な流造は、神社本殿の最も普通の形式で全国に分布していますが、上・下賀茂社の流造は独特の伝承形式です。
国宝/1863(文久3)年造替 模型縮尺1/50



大社造 出雲大社本殿模型

正面2間×側面2間、切妻造妻入り、檜皮葺。千木までの高さは約24mで、国内随一の高大な本殿建築です。江戸時代前半、1667(寛文7)年の造替時、中世以来の仏教色を排除し、当時の考え方としてより古い形式に「復古」した建築でもあります。
国宝/1744(延享元)年造替 模型縮尺1/50



住吉造 住吉大社本殿(第一本宮)模型

正面2間×側面4間、切妻造妻入り、檜皮葺。第一から第四宮の本殿四棟が縦に列んでいます。殿内は前後2室に分かれています。伊勢神宮と同様に直線的な屋根形態をもち細部も簡素な造りですが、柱、壁ともに彩色されています。年数は必ずしも一定しませんが、20年ごとの定期造替の制度が伝えられています。

平安時代以降、神仏習合の思想の影響

春日造→住吉造から変化、片側の妻に向拝を付加し妻入り、屋根は弛み曲線

流れ造→神明造から変化、正面側の屋根を伸ばし向拝、高欄付きの廻り縁

八幡造→流れ造から変化、本殿と拝殿の間に細殿

日吉造→入母屋、平入り

権現造→桃山時代に発達、本殿と拝殿に石の間の空間を一棟とする複雑な屋根



八幡造 宇佐神宮本殿(第一之殿)模型

内院正面3間×側面2間・外院正面3間×側面1間。切妻造平入り、檜皮葺の建物が前後に2棟並びますが、共に本殿で昼の住まいと夜の住まいになっています。曲線的な屋根には千木、勝男木を置かず、2棟の間に雨水を受ける樋が設けられています。第一から第三之殿が並列し、柱、壁ともに彩色されています。古代から中世にかけては、30年ないし33年に1度の定期造替の制度があったとされます。

国宝／1859(安政6)～1861(文久元)年造替 模型縮尺1/50



春日造 春日大社本殿模型

正面1間×側面1間、檜皮葺で切妻造妻入りの正面に屋根(向拝)を付けた形です。并桁状の土台の上に柱が立ちあがります。第一から第四殿が並列し、柱、壁をはじめ全体が彩色されています。約20年に一度の造替の制度を今に伝えています。一般的な春日造は、流造に次いで多く見られる小規模な形式で、奈良県をはじめとする近畿地方を中心に分布しています。春日大社の春日造は独特の伝承形式です。

国宝／1863(文久3)年造替 模型縮尺1/50

鳥居の種類→2本の柱と横木からなる簡潔なモノ

神明鳥居系→島木がなし 伊勢神宮、鹿島神宮、靖国神社

明神鳥居系→島木がある 稲荷鳥居、山王鳥居

神明鳥居→神明造でたてる

八幡鳥居→笠木、島木に反りを付けない、端はたすき隅切り

春日鳥居→笠木、島木に反りを付けない、端は立水切り

明神鳥居→笠木、島木に反りを付ける、端は斜切り

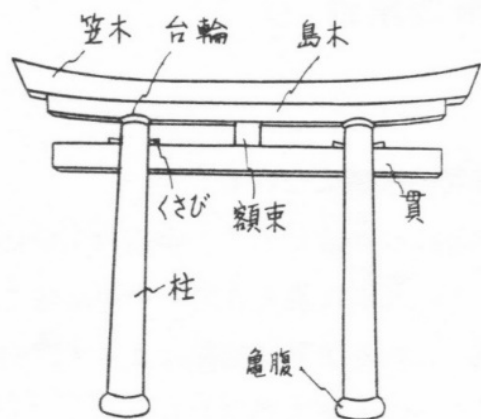
鹿島鳥居→神明鳥居と似て、貫鼻を間の1/3

稲荷鳥居→明神鳥居に似て、上端に台輪を付ける

山王鳥居→稲荷鳥居の上に破風の合掌を付した

両部鳥居→稲荷鳥居に前後に子柱

三輪鳥居→鳥居の両脇に袖柱



鳥居各部の名称

トイレの変遷

旧石器時代	大自然の中
縄文・弥生時代	集落周辺の空地空間→空き地、雑木林
古墳時代	排泄物処理システムの黎明期 →集落周辺の空き地、一部に移動式、水洗式
飛鳥時代	排泄物処理システムの出現 →人口集中地区では移動式、水洗式
奈良時代	排泄物処理システムの確立
平安時代	寝殿造で移動式トイレを使い側溝に廃棄

続日本紀 706年3月14日の項

京の内外に汚れた悪臭がある→藤原京が16年で遷宮

和語 かわや 川屋、河屋、厠、廁、厠殿、樋殿、御装（よそおい）物所、隠所

漢語 厠、廁

厠（新字源）

①側屋

②川の上にかけて渡して作った家